

第 6 次東員町総合計画 後期基本計画（素案）

重点施策

1. 健康で暮らせるまち

元気のその先へ。心と体のバランスでつくる、健幸ライフ。

【これからも健康寿命、主体的な心身の健幸づくり】

本町の強みである「健康寿命」を維持していくため、フレイル予防を中心とした施策に加え、心の健康にも寄り添った取り組みを推進します。町民一人ひとりが生きがいと幸福感を感じ、主体的に心身の健幸（ウェルビーイング）づくりに取り組めるよう、行政や関係団体が一体となって連携し、生活習慣全般からサポートする体制を整備します。また、交流や社会参加を促進し、生涯にわたり活動的でいられるよう、公共交通などの移動手段の確保にも努めます。

1-1 健康づくりの推進

3-3 高齢者福祉の推進

9-3 公共交通網の維持・確保

2. 子育てがしやすいまち

この子の未来が、もっと輝くまちになる。

【輝く未来を育む、こどもまんなか社会の実現】子どもたちの未来を育むため、乳幼児期から青年期までのライフステージを切れ目なくサポートします。子育て世代が安心して働ける環境と、子どもたちが健やかに成長できる居場所づくりや環境づくりを並行して進めます。また、子どもたちが自分らしく輝き、社会で生きる力を育む教育として「16 年一貫教育」を推進し、そのシンボルとなる東員第一中学校の移転整備を着実に進めます。

2-1 子育て支援の充実

5-1 幼児教育・学校教育の充実

5-2 教育環境の整備

3. 稼げるまち

挑戦するまち。地域資源をイノベーションへ。

【稼ぐための挑戦と自立的な地域経営モデルの確立】人口減少下においても、地域資源を最大限に活用し、地域経済の向上を目指します。農業の 6 次産業化や観光地域づくりを進め、食・産業・自然環境・文化芸術といった本町のポテンシャルを活かした連携（新結合）により、地方イノベーションの創出に取り組みます。また、民間活力を導入して地域経済の活性化を図り、起業支援や企業誘致を積極的に進めます。

3-7 観光の振興

6-3 文化力の向上

6-4 スポーツの振興

7-1 農業の振興

7-2 商工業の振興

9-1 未来をデザインするまちの形成

4. 協力しあえるまち

手を取り合えば、まちはもっと楽しくなる。

【多様な主体による共創】 住民・企業・市民活動団体・行政など、多様な主体が協力・協働（官民連携）し、地域課題の解決と地域価値の向上に取り組めます。自治会や市民活動団体など地域が自ら課題解決に取り組む、主体的で特色ある地域づくりを支援します。また、子ども・障がい・高齢者といった行政分野の縦割りを排し、「8050 問題」や「孤独・孤立」など複雑化する地域課題を丸ごと受け止める包括的支援体制を強化し、地域共生社会の実現を目指すなど、政策分野の枠を超えた連携で、相乗効果の創出と課題の複合的な解決を図ります。さらに、住民の経済活動や生活圏が行政区域に限定されない現状を踏まえ、広域的な視点に立った連携を推進します。

3-1 主体的で特色のある地域づくりの推進

3-2 地域福祉の推進

4-1 効率的行財政の運営

5. 人生を豊かにするまち

誇り育む、感動ライフ。

【文化・スポーツなどを通じた住民の QOL 向上】 文化やスポーツを通じて地域への愛着（シビックプライド）を育み、町民の生活の質（QOL）を高めます。質の高い文化・芸術活動を継続的に支援し、文化力の向上を図ります。また、スポーツ振興とともに、ヴィアティン三重のホームグラウンドとしての魅力を活かし、交流人口・関係人口の拡大につなげます。さらに、本町を代表する魅力資源である中部公園の活用と進化を進め、町で暮らす楽しさと賑わいを創出します。

6-3 文化力の向上

6-4 スポーツの振興

9-1 未来をデザインするまちの形成

6. デジタル化で進化するまち

スマート役場、進化中。

【DX と経営改革による持続可能な行政経営の確立】 行政経営の持続可能性を高めるため、DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進とデジタル人材の育成を進めます。行政サービスを「量」から「質」へ転換し、住民利便性と行政効率の双方の向上を図ります。コスト意識を持った持続可能な経営を目指し、インフラの最適化（省インフラ）や普通財産の有効活用を推進します。

4-2 行政機能の確保・管理

7. 持続可能な安全安心のまち

自然と共に生きる。いざという時も守れる強さを。

【自然と調和し、安全で安心に暮らせる持続可能なまち】 豊かな自然資源と町の価値を相互に高め合う「ネイチャーポジティブ（自然再興）」な地域づくりを進め、脱炭素・循環型社会を目指します。また、国土強靱化の視点から、インフラや拠点の整備に「フェーズフリー（日常時と非常時を区別しない）」の考え方を取り入れ、日常的な地域のふれあいや交流を生み出すエリアの創出を進めます。

8-1 消防・防災対策の充実

9-4 脱炭素・循環型社会の形成

8. 生まれかわるまち

住み継がれる、世代をつなぐ新しいふるさと。

【エリア価値再定義による多世代好循環】 東員町が100年後も存続するため、未来の世代へ引き継ぐ土地利用のランドデザインを描き、エリア価値を再定義します。若い世代が「住みたい」と思えるまちづくりを通じて、多世代好循環を促進します。

具体的には、北部においては団地再生に加え、北東部エリアを中心に広域的な視点から「稼ぎ」と「雇用」を生み出す産業用地等の創出を目指します。中部においては交通の要所として商業・公共サービス機能の集積と市街化を促進し、南部においては東員 IC の好立地を活かしつつ、優良農地の保全と既存集落の維持に取り組みます。

9-1 未来をデザインするまちの形成

9-2 道路の整備・管理